

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272000298		
法人名	株式会社 楽天堂		
事業所名	スイートホーム うなかみ		
所在地	千葉県旭市蛇園3060-1		
自己評価作成日	平成23年2月22日	評価結果市町村受理日	平成23年6月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成23年3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者さまは皆様、のどかな田園風景と静かな住宅街に囲まれた施設の中で、明るく素朴な職員たちと、家庭的な雰囲気の中で日々穏やかに暮らされています。法人内外の医療連携も整っており、利用者様、御家族様共に安心して過ごしていただける体制が出来ております。お近くへお越しの際はお気軽にお立ち寄りください。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

海岸からほど近い、自然豊かな場所に「スイートホームうなかみ」がある。各職員が笑顔を絶やすことなく日々介護を行っており、温もりのある生活を提供出来るよう努めている。地域との交流に対し、積極的に取り組んでおり、年々地域との関わりが深まっている。また、毎年積極的に、地域の介護教室への講師派遣や地域の中学生の職業体験受け入れ等、世代間交流や地域貢献に努めている。その他にも、定期的な外部研修への参加・内部研修の実施等を通じて、サービスの質の向上にも努めている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関及び事務所に理念を掲示し、毎朝の申し送りや毎月のミーティングで確認し、全職員が共有・実践できるよう努めている。	「共生」と言う社是及び「助け合う心・ゆとりある生活・お互いの個性を尊重し、ぬくもりを笑顔に」と言う施設理念を掲げている。理念や行動指針等は新人研修にて、周知すると共に、毎日の朝礼時に唱和し、全職員が共有している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事には積極的に参加し、地域の方々との交流に努めている。	積極的に地域住民を招き、流しそうめん・餅つき等を行い交流を図っている。夏祭り等の地域行事に参加し、入居者の生活の活性化に繋げている。また、研修会への講師派遣や地域の中学生の職業体験も受け入れる等の地域貢献を図っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通じ、地域の方々にもご理解いただけるよう取り組んでいる。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの取り組みや活動状況の報告を行い、参加者から頂いた意見は全職員に伝え、実践に向けて取り組んでいくよう努めている。	市役所職員・地域住民・家族等を構成員として、年に3回、運営推進会議を開催している。議題として、施設の活動報告や意見交換を行い、施設理解の促進に努めると共に、非常災害時における地域との協力体制作りについても話し合いがもたれ、サービスの質の向上に努めている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月初に入居者及び待機者名簿を提出し、些細な事でも相談に乗っていただいたり、運営推進会議にも出席していただいている。	日頃から市に対して、電話や訪問を通じて、業務における相談・報告を随時行い、密に連携を図っている。また、市の主催する「地域ケア会議」にも参加しており、市と意見・情報交換を行い、問題の早期解決・サービスの質の向上を図っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルを活用し、また、研修等積極的に参加し、全職員が正しく理解したうえで、玄関の施錠はせず、門扉も設置しない、拘束の無いケアに努めている。	「身体拘束排除宣言」を掲げていると共に、マニュアルの整備や研修の実施・参加を行っており、職員全員が意義を理解し、実践している。センサーチャイムを設置し、入居者の安全確保をした上で、玄関の施錠は行わず、自由な生活を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを活用し、所内でも虐待防止の研修を行い職員全員で周知し、注意を払っている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象になる方はいないが、成年後見制度についてのマニュアルを活用し、職員全員が周知している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居の際には契約書及び重要事項説明書を用い、家族・利用者と十分な話し合いを行い、理解・納得を頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各利用者に担当職員を決め、利用者が意見や苦情・不満等を話しやすい環境を作り、訴え等あった場合、管理者に報告、直ちに対応するよう心がけている。年一回家族会を設けている。	定期的開催される家族会や面会時・電話連絡時等に、家族の意見・要望を確認している。挙げた意見においては、会議にて周知・検討しており、適切な改善に努めている。また、入居者の様子を毎月スイートホームうななみ「あれこれ」を家族に写真付きで送付しており、より詳細な生活状況を報告している。意思疎通が困難な入居者の場合、表情やしぐさで意見が汲み上げられるよう努めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	所内で月一回ミーティングを行い職員の意見を聞き、月に一度の所長会議のなかで、職員の意見や提案を反映させている。	定期的な会議を開催しており、職員の意見や提案を確認する機会が設けられている。また、日頃の業務において、管理者が個別に話をする機会を設けており、職員の意見や思い等を把握するよう努めている。毎月併設施設を含めた全体会議を開催しており、意見交換を行い、意見・提案を運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望をなるべく取り入れ、職員全員が働きやすい環境になるよう考慮している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県の社会福祉研修及びセンター主催の研修、社内外の研修に積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック交流会及び市内の介護保険事業所交流会等に参加し、他事業者との交流を持つよう努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活上の困っていることや不安なことを話して下さるよう促している。共感的態度を示し安心できるような言葉掛けを行っている。要望についていっしょに取り組んでいくことを伝えている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていることを十分に聞きだし、今のニーズが何か把握するよう努めている。事業所がどのように対応できるか説明し、安心して利用していただけるような関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の際、今の困り事と状況を傾聴することで必要としている支援を見極めている。他のサービス利用の情報提供も行いながらグループホームでの生活が最善かご本人、ご家族とともに考えている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでの経験を活かした活躍場面が作れるよう心がけ、毎日の会話を大切に、本人の意思を尊重できるよう努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのコミュニケーションを大切にしながら、利用者を共に支える介護者として支えあっていける関係づくりに努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族からの情報収集に努め、手紙を書く為の支援や、馴染みの場所への同行支援等を行っている。	家族との外出・外泊は自由となっており、家族間の関係継続をしていると共に、知人・友人の来訪や手紙のやり取り等も支援しており、馴染みの人との関係継続にも配慮している。また、お墓参りへの同行や地域行事への参加等をし、馴染みの場所への外出を行っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が自然に声掛けや手助けを行える関係づくりが出来ており、時に問題が生じた時には職員が間に入り、溝が生じることがないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調の悪化で入院・退所となった方にも連絡を取り合い、時には訪問して、本人や家族の支えになれるよう努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族から生活歴、心身の状況等を十分にうかがい希望、意向の把握に努めている。日常の会話やコミュニケーションを通じてどのように暮らすことを望んでいるか家族、職員で話し合っている。	入居時に、訪問調査を実施し、本人・家族から意向・生活歴・身体状況等を確認している。入居後においては、会話の中から入居者の意向の把握を行なうと共に、職員全員で情報を共有し、安心して生活できる環境作りに努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者、家族から心身の状況、生活歴等を十分に聴きだし、生活面の希望・意向の把握に努めている。ご本人にとってどのように暮らすことが安心なのか、家族も交えて話合っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は利用者とのコミュニケーションを図りながら生活リズムを把握している。利用者様の行動、様子を随時ノートに記録し、職員が情報を共有することで現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の日々の様子や、気づいたことを随時ノートに記録し、ケアのあり方を日々の申し送りや定期ミーティングで話し合っている。出されたアイデアを家族と相談後、介護計画を作成している。	介護計画においては、入居者・家族からの要望を基に、会議を通じて情報交換を行い、作成している。必要に応じて主治医にも相談し、現状に即した介護計画の作成に取り組んでいる。また、毎月、目標の達成状況の確認や評価を行い、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを「気づきノート」に随時記録しており、情報の共有に活かしている。ケアの実践と結果を個別記録に記入することで十分な情報を知ることが出来ており、介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月一度の外出支援を行っている。当社のデイサービスセンターの利用者様との交流を持っていただき楽しみのある生活支援に努めている。本人、家族の状況に応じて、通院支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中学生の来訪や、ボランティアさんによる踊りの観賞等で交流を楽しんでいただいている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院による2週間に1度の往診を受けている方や、精神科医師による定期往診を受けている方もいる。本人、家族の希望される医師に受診される方もいる。日々の状態等も報告し、適切な医療を受けられるよう支援している。	協力病院を中心に希望のかかりつけ医への受診が可能となっており、希望に応じて職員が通院の付き添いを支援している。また、定期的に内科往診が実施されており、適切な医療支援が行われている。週1回訪問看護が実施されており、入居者の健康管理が行われている。緊急時においては、協力病院や訪問看護と連携し、適切な対応が図れるよう体制を整えている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携を取り、週1回健康チェックを受けていただいている。本人の体調を報告し、助言を受けることで安心してケアを実践している。急な体調変化の時も連絡を取り相談をして適切な対応ができるようにしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	急変時は、救急棟に受診対応を行い、医療職に本人の普段の状態と急変時の状況を伝達している。入院時は、定期的に見舞い、医療職、家族との情報交換や退院後のケアの注意点等の指導をいただいている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約前に方針の説明を行い、納得・理解を頂いた上で事前確認書を作成している。本人・家族の状況の変化時は、再度事業所の出来ることを説明し、確認書の見直しを行っている。終末期介護の意向のある利用者には、主治医、看護師から対応法の指導を頂きながら支援を行った。	契約時に、重度化・終末期における方針・対応方法を説明し、同意を得ている。また、必要に応じて、随時意向を確認しており、終末期における相談を行っている。終末期の支援実績もあり、協力病院や訪問看護と連携を密に図り、適切な対応が図られている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救急救命法の講習会に参加し、学んだことを全職員に伝えながら実践力が身につくよう努めている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署立会いで避難訓練を行っている。また緊急連絡網を作り、昼夜を問わず対応できるよう訓練している。行政より指導いただき、事業所内にスプリンクラーの設備を行った。	火災報知機・自動通報装置・消火器・非常持ち出し袋等が設置されていると共に、今年度スプリンクラーも設置された。避難経路には車椅子の入所者にも対応する為、スロープが設置され不測の事態にも万全を期している。また、防災について地域住民とも協力体制が構築されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護のためのマニュアルを活用し研修等を行っている。利用者一人一人に合った言葉掛けや態度を心掛け対応している。	プライバシー保護に関するマニュアルの整備・研修の実施等を行っている。また、失礼のない言葉使いを基本とし、その人に合った言葉使いを用いており、本人らしい生活の支援に努めている。また、排泄時も場所を変えて声掛けを行なう等、入居者のプライバシーに配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の会話の中で本人の思いや希望が自然に表せるよう配慮したり、言葉による意思表示が出来ない場合でも、表情やしぐさから判断し、自己決定できるよう支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日のスケジュールは決まっていますが、それにとらわれることなく事無く、利用者のペースを優先し、希望に合った生活が送れるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に1度理容師に来所してもらい希望に応じて散髪していただいたり、好みの服が選べるよう声掛けや必要に応じて支援を行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が一緒に食事をとり楽しい雰囲気作りを心がけ、季節行事にあわせたメニューを取り入れたりして毎日の食事が楽しみなものになるよう努めている。	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備や片付け等を共同で行っている。昼・夜の献立や食材においては、業者に委託し、栄養バランスに配慮した食事提供が行なわれており、朝・おやつは入居者と共同で調理する等している。また、庭で開催されるバーベキューや流しそうめん等四季折々の食の楽しみを支援している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼・夜の献立や食材は業者に委託し、高齢者福祉食で栄養バランスに配慮し、毎食の摂取量も記録している。必要に応じて、きざみ食・ミキサー食の提供も行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力や状態に応じて声掛けや介助を行い清潔が維持できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、それぞれの排泄パターンを把握してトイレ誘導を行っている。夜間においても能力に合わせ、ポータブルトイレの使用やトイレ誘導を行っている。	排泄チェック表を活用し、入居者の排泄パターンを把握しており、適切な声掛け・トイレ誘導にて、一人ひとりに合わせた排泄を支援している。出来る限り、トイレでの排泄を心掛けており、自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分の摂取量に気を配り、メニューの工夫や運動の働きかけをした上で、必要に応じて医師や看護師にも相談し個々にあった対応をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴時間を設け、体調に応じて、足浴やシャワー浴、清拭なども実施している。入浴拒否をする方にも声掛けを工夫し、無理なく入浴していただけるよう支援している。	入浴においては、毎日実施しており、希望に応じて回数等柔軟に支援している。また、清拭・シャワー浴・足浴等を実施しており、入居者の清潔保持に努めている。入浴拒否においては、その人に合った声掛けや時間の変更等にて、無理強いしない入浴を実施している。脱衣所には、ヒーターが設置しており、冬でも快適に入浴してもらえるよう配慮している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の散歩やドライブ、レクリエーション活動などで生活にメリハリをつけ、夜間の安眠につながるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬ケースを用意し説明書と一緒に保管し、全職員が把握している。また処方が変わった場合も、申し送り帳への記入と口頭による申し送りで確認している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力や経験を活かした役割が持てるよう、掃除や洗濯、調理等手伝っていただいたりしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	それぞれの希望に応じ、体調や天候を考慮しながら散歩やドライブ等に出かけたり、月に一度は外食を兼ね、季節ごとの花見などに出かけています。	日頃から散歩・買い物・ドライブ等の外出支援が行われている。入居者一人ひとりの希望や好みに合わせて散歩コースや買い物先を選択し、楽しく外出できるよう配慮している。また、法人の他事業所から福祉車両を借りる事が可能となっており、幅広い外出活動を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額ではあるがご自分で財布を持ち、外出の際には買い物をする方もいらっしゃる。それぞれの能力に応じた支援を心掛けている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙・電話はいつでもできるよう、常に支援している。年賀状等のやり取りもされている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロアに季節感を持たせた装飾をしたり、フロアには、テレビ・ソファを置き利用者同士と一緒にくつろげる空間作りをしている。	施設内は、バリアフリーとなっており、十分な介助スペースが確保され、入居者の安全面に配慮した設計となっている。敷地内には、庭や駐車場等があり、草木の手入れ・お茶のみ・散歩等をする事が可能となっており、気軽に外の空気を楽しむ事ができるようになっている。リビングには、ソファやテーブルが設置されており、入居者が思い思いにくつろぐ事が可能となっている。また、日々の清掃や害虫駆除剤の使用により、施設内の衛生管理を徹底している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事用テーブルは二つに分け、ソファも3脚設置し、自分のお気に入りの場所を作ったり、気のあった方同士で過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込んでいただいたり、ご家族の写真などを飾ったりと、それぞれに居心地の良い空間となるよう工夫している。	希望に応じて、馴染みの物を持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活できるよう配慮している。また、畳・絨毯・布団等を使用する事が可能となっており、入居者の生活歴に合わせた居室作りも行われている。各居室に、エアコン・換気扇・呼び出しインターホンが設置されており、快適性や安全面に配慮した造りとなっている。希望に応じて、鍵を設置する事が可能となっており、入居者のプライバシーの確保もなされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やフロアへの手すりの設置や、浴室でのシャワーチェアの使用等、安全面に配慮し、能力に合わせ自立した生活が送れるよう支援している。		